

「安心・安全なまちづくり の実現へ」



新潟市消防局長 上山 徹

新潟市は越後平野の中央部、信濃川・阿賀野川の河口部に位置し、北前船の寄港地として栄えた古くからの「みなとまち」です。日本一長い信濃川に架かる萬代橋は、平成16年7月に国の重要文化財に指定され新潟市のシンボリックな存在となっております。また2つの大河に加えラムサール条約登録湿地である佐潟など、多くの水辺空間や広大な田園、自然に囲まれ、コハクチョウの越冬数は日本一を誇ります。歴史的には、開港5港の一つに指定され、世界に開かれた港町となった新潟町は、平成8年には中核市に指定され、平成17年には近隣13市町村と合併し、平成19年4月1日に本州日本海側初の政令指定都市となり、今年で8年目が経過しました。

当市は本州日本海側のほぼ中央に位置し、国際空港や港湾、上越新幹線や高速道路などが整備され、首都圏のみならず、国内外各方面への交通・物流拠点として重要な役割を持っており、その役割は平時、非常時にかかわらず有効に活用していく必要があります。

4年前に発生した東日本大震災では、中越地震、中越沖地震での災害支援の経験から得た教訓を基に、日本海側の救援センターとしての機能を発揮しましたが、将来発生が危惧される首都直下地震や南海トラフ巨大地震などの大規模な自然災害に対しても、より一層、対策の強化に努めていかなければなりません。当市では「安心政令市にいがた」をめざし、社会・経済活動を維持し、迅速な復旧復興を可能にする地域の強靱化を推進するとともに、これまでの災害支援の経験と実績に加え、当市が持つポテンシャルを生かすことで、「防災・救援首都」としての強固な体制作りに取り組み、その中でも市民の生命・身体・財産を守り、安心・安全を担う我々消防がその基幹をなすものとして、様々な事業を推進しているところです。

平成25年度に着工した消防局・中央消防署の移転新築工事が本年11月には竣工予定となっておりますが、免震構造、屋上ヘリポートの設置のほか、ライフラインが途絶えた場合に備え、自家用給油所をはじめ、長時間運転が可能な自家用発電設備を整備し、新たに市災害対策本部のバックアップ機能も盛り込むことで災害対応拠点としての能力を大幅に強化しています。さらに、訓練施設を併設し職員の技能向上を図るとともに、一般市民向けには消火や煙体験、応急手当等の研修スペースを確保するなど、市民の防災・減災意識の高揚につなげてまいります。

消防を取り巻く社会環境が常に変化していく中、市民ニーズへの的確な対応と市民が安心して暮らせる都市の実現のため、「出火防止と火災による被害の軽減」、「救急救命体制の更なる充実」、「災害対応能力の強化」の3点を本年度の消防局マニフェストとして掲げ、各種事業を推進しております。

今後も、職員個々の力はもちろんのこと、組織力を最大限に発揮し、「安心政令市にいがた」を目指し、職員一丸となり尽力してまいります。